子供の変化を職員と一緒に喜ぶ教頭になる

― 難しい仕事だからこそ、変化を喜べる ―

児童生徒指導は、すぐに結果が出る仕事ばかりではありません。それでも、「今日は教室に入れた」「自分から挨拶できた」「けんかのあと話し合えた」など、小さな変化が起きています。その変化を見逃さず、担任や関係職員と一緒に喜ぶことが、次の支援を考える力になります。

工夫1 「できた・できていない」だけで見ない

- 昨日との小さな違いを見る。
- 落ち着ける時間や場にも気付く。
- 本人にとっての意味を確かめる。

工夫2 変化はその日のうちに共有する

- 具体的な姿を担任に返す。
- 支えた職員の努力もねぎらう。
- 本人の意向と共有範囲に配慮する。

工夫3 何が効いたかを職員と一緒に考える

- 時間・場所・人・声掛けを振り返る。
- 次の支援に使える条件を探す。
- 一つの理由に決めつけない。

工夫4 本人にも「変わったところ」を返す

- 以前との違いを短く伝える。
- 結果だけでなく努力も認める。
- 本人の言葉で次の目標を決める。

工夫5 子供の一歩をチームの喜びにする

- 支えた職員と成果を共有する。
- 家庭にもよい変化を伝える。
- 成果が出ても支援を急に減らさない。

明日、ちょっとやってみよう

1 昨日との小さな違いを見る。
2 具体的な姿を担任に返す。
3 時間・場所・人・声掛けを振り返る。
4 以前との違いを短く伝える。
5 支えた職員と成果を共有する。



参考資料・出典（実践・解説①・解説②共通）

・全国公立学校教頭会『令和8年度全国公立学校教頭会 Web用・集計結果（小・中）』『令和8年度全国公立学校教頭会 Web用・集計結果（義務・一貫）』設問14・15（やりがい・負担）。全校種計21,512人の回答を合算。
・文部科学省『生徒指導提要』（令和4年12月改訂）第1章「生徒指導の基礎」・第3章「チーム学校による生徒指導体制」。

具体的な手順・声掛け・想定場面は、参考資料を踏まえた独自の実践提案です。

子供の変化を職員と一緒に喜ぶ教頭になる

― 難しい仕事だからこそ、変化を喜べる ―

工夫1〜3：関わりの意図と具体的な進め方

工夫1 「できた・できていない」だけで見ない

登校時間、表情、会話、授業参加など、昨日との小さな違いを見ます。問題行動だけでなく、うまくいっている時間や場面にも注目します。「できなかった理由」だけでなく、「できたとき何が違ったか」を考えます。本人の努力が見えた場面は、短くても本人に伝えます。「できた」を大人側の基準だけで決めず、本人にとっての意味も確かめます。
教頭が見た一場面だけで成長や後退を決めないことが大切です。担任の観察、本人の話、時間帯や環境を合わせて見ます。昨日と違う姿があっても、すぐに努力不足とせず、体調や不安などを確かめます。子供自身が安心できたことや助けを求められたことも大切な変化です。

工夫2 変化はその日のうちに共有する

「今日は自分から教室に入れた」など、具体的な変化を担任や関係職員に伝えます。小さな前進を共有すると、支援している職員の疲労感や孤立感も和らぎます。共有は事実を中心にし、過度な期待や決めつけを避けます。本人の前で共有する場合は、本人がどう受け止めるかにも配慮します。
よい変化を共有するときは、個人情報や本人の気持ちに配慮して共有範囲を考えます。
伝える内容は「二時間目に十分間、自席で課題に取り組んだ」のように事実を具体化します。「もう大丈夫」と広げず、本人が使った言葉と大人の解釈を分けます。共有は関係する職員に絞り、子供のよい話であっても、誰にでも話してよいわけではないと確認します。

工夫3 何が効いたかを職員と一緒に考える

うまくいった日には、声掛け、時間、場所、関わった人などを振り返ります。成功した条件が分かれば、次の支援に再現しやすくなります。一つの方法に固執せず、子供の様子に合わせて柔軟に修正します。ケース会議では「問題」だけでなく「うまくいったこと」から始めます。うまくいった理由を一つに決めつけず、複数の条件が重なった可能性を考えます。
同じ声掛けでも、時間、周囲の人数、課題の量によって反応は変わります。うまくいった場面の条件を二、三点挙げ、次に一つだけ試して確かめます。一度の成功で方法の効果を断定せず、本人の負担や気持ちも聞き、続ける方法と変える方法を分けます。

全公教調査から



令和8年度 全校種計21,512人・複数回答
数値の出典は下部の参考資料欄を参照。

調査は教頭の職務への受け止めを示すものです。ここで紹介する工夫の効果を実証した調査ではありません。

参考資料・出典（実践・解説①・解説②共通）

・全国公立学校教頭会『令和8年度全国公立学校教頭会 Web用・集計結果（小・中）』『令和8年度全国公立学校教頭会 Web用・集計結果（義務・一貫）』設問14・15（やりがい・負担）。全校種計21,512人の回答を合算。
・文部科学省『生徒指導提要』（令和4年12月改訂）第1章「生徒指導の基礎」・第3章「チーム学校による生徒指導体制」。

具体的な手順・声掛け・想定場面は、参考資料を踏まえた独自の実践提案です。

子供の変化を職員と一緒に喜ぶ教頭になる

― 難しい仕事だからこそ、変化を喜べる ―

工夫4・5：関わりを続ける工夫と場面別の判断

工夫4 本人にも「変わったところ」を返す

「前より自分から話せたね」など、本人が気付きにくい変化を具体的に伝えます。結果より、試したことや努力したことも認めます。褒められることが負担になる子には、静かに短く伝えるなど方法を工夫します。本人の言葉で次の目標を決められるよう、問い掛けます。本人への伝え方は、直接・メモ・担任経由など、その子に合う方法を選びます。
例えば「今日は自分から休憩したいと伝えられたね。困ったときの方法が一つ増えたね」と返します。みんなの前で褒めることが負担なら、人のいない場所や担任経由で伝えます。大人が喜ぶ姿を無理に続けさせず、本人が次にどうしたいかを尋ねる余地を残します。

工夫5 子供の一歩をチームの喜びにする

担任だけの成果にせず、養護教諭、支援員、SC等の関わりも含めて喜びます。支援に関わった人へ「この関わりが効いた」と返すことでチームの力が高まります。家庭から聞いたよい変化も、必要に応じて学校内で共有します。小さな成果を喜んだ後、次に何を続けるか一つだけ確認します。成果を喜んだ後も急に支援を減らさず、安定するまで同じ関わりを続けます。
変化を支えた人へ、観察できた事実と役立った関わりを返します。誰の手柄かを競うのではなく、次も続ける支援を確認します。担任には「一人で成果を出した」と求めず、チームで支えた過程を言葉にします。順調な日が続いた後も、不調の日に戻れる支援を残します。

場面で考える（想定例）

昨日できたことが、今日はできなかったら

後退と決め付けず、体調、予定の変更、周囲の様子などを担任と確かめます。本人にはできなかった理由を詰めず、安心して過ごせる方法を聞きます。支援を増やすか元の条件に戻すかをチームで相談し、一日の結果だけで方法の成否を判断しないようにします。

自校で試し、確かめる

実践ページの五つの工夫から、今の学校で取り組めるものを一つ選びます。誰に、どの場面で働き掛けるかを具体化し、一週間程度を目安に、本人や関係者と変化を確かめます。続ける点と変える点を一つずつ決め、記録を増やし過ぎずに次の実践へつなげます。

振り返りの問い

- 本人の考えや希望を確かめたか。
- 教頭と担当者の役割は明確か。
- 続けること・変えることは何か。



参考資料・出典（実践・解説①・解説②共通）
・全国公立学校教頭会『令和8年度全国公立学校教頭会 Web用・集計結果（小・中）』『令和8年度全国公立学校教頭会 Web用・集計結果（義務・一貫）』設問14・15（やりがい・負担）。全校種計21,512人の回答を合算。
・文部科学省『生徒指導提要』（令和4年12月改訂）第1章「生徒指導の基礎」・第3章「チーム学校による生徒指導体制」。

具体的な手順・声掛け・想定場面は、参考資料を踏まえた独自の実践提案です。